

# 紀 要

第 6 号

---

---

## 目 次

粟津湖底遺跡出土の木質遺物……………	(伊 東 隆 夫)
弥生時代の木偶と祭祀 —中主町湯ノ部遺跡出土木偶から—……………	(濱 修)
県内における磨製石斧の消滅年代について……………	(井 上 洋 介)
土師器甕の変遷とその背景 —近江型土師器成立への諸段階—……………	(大 崎 哲 人)
草津市笠山古窯出土遺物の紹介 —笠山古窯の位置づけをめぐって・瀬田丘陵生産遺跡群の検討— ……………	(畑 中 英 二)
倭京の実像 —飛鳥地域における京の成立過程—……………	(相 原 嘉 之)
近江八幡市大手前・御所内遺跡出土の銅印をめぐって……………	(田 路 正 幸)
将棋史研究ノート(3) —王将と玉将—……………	(三 宅 弘)
近江国坂田荘の開発(中) —長浜市大東遺跡を中心として—……………	(北 村 圭 弘)
滋賀県八日市・永源寺地域における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布 —八日市市・永源寺町石造美術石材分布調査概要—……………	(兼 康 保 明)
滋賀県出土の埴輪資料集(その3)……………	(稲 垣 正 宏)

---

---

1993. 3

財団法人 滋賀県文化財保護協会

# 滋賀県八日市・永源寺地域における 蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布

## — 八日市市・永源寺町石造美術石材分布調査概要 —

兼 康 保 明

### 1. はじめに

蒲生郡日野町蔵王に産する、「米石」と通称されている細粒黒雲母花崗岩を用いた中世石造美術は、石質といい作品の優秀さといい、特筆すべきものである。その分布をとおして、「蔵王の石造文化圏」<sup>(1)</sup>と中世石材工業の実態を明らかにするため、これまでに石材産地のある蒲生郡日野町と、その下流域にあたる蒲生町における中世石造美術の分布調査を実施してきた。その結果、日野町内では蔵王と谷を隔てて、近世に花崗岩の石切り場として著名な小野（この）に近い佐久良川流域においても、蔵王産石材（以下「米石」とする）による石造美術が濃厚な分布を示していることが明らかになった。

一方、獅子文や孔雀文の追跡から、愛知川に近い八日市市神田町の河桁御河辺神社にある重要美術品の延慶4年（1311）石燈籠が「米石」であることが確認された。また、田岡香逸氏の永源寺町高木・浄福寺境内墓地の石造美術調査報告にある拓本より、「米石」独特の石材のきめ細かさがみられることから、石材について再調査を行ったところやはり「米石」であることが確認された。こうしたことから、佐久良川からさらに布引丘陵を越えて、八日市市および神崎郡永源寺町に蔵王産の花崗岩を用いた中世石造美術がどのような分布を示すのか、改めて石材の分布調査をすることにした。

この地域には、蒲生郡同様優秀な中世石造美術が多数所在し、これまでから紹介がなされているが、まとまったものとしては次のような石造美術の報告があげられる。

**田岡香逸氏の調査** 蒲生郡日野町、蒲生町の石造美術を精査された田岡香逸氏の調査は、残念ながらこの地域では日野・蒲生両町ほど完全なものではない。

八日市市内については、『蒲生野』に2回にわたって、「八日市の石造美術」として、平尾町極楽寺五輪塔と、林田町香林寺宝篋印塔、金屋2丁目金念寺宝篋印塔、神田町の石造美術などの報告がある。また、『民俗文化』にも、西市辺、六木、上羽田、野村、今堀、布施、小今町、芝原、柏木町、寺町、市辺町、蛇溝など11篇の調査報告がある。

永源寺町については全域ではないが、やはり『民俗文化』に、高木と和南の調査報告が1篇ある。

**三木治子氏の調査** 田岡氏の報告以外でまとまったものとしては、三木治子氏が八日市市内を西南部、中央部、東南部、北部の5地区に分けて、各地域の石造美術を『歴史考古学』に2回にわたって報告されている。また、銘文や文様などの考察もなされており、現在のところ八日市市全域の主要な石造美術のデータが網羅されている労作である。

近藤 豊氏の調査 また、この他にも『八日市市史』第2巻に、市内の主要な中世石造美術の紹介がある。内容的には、主要な石造美術の解説の域を出ないが、手際よくまとめられており便利である。ただ、細かい点について、歴史考古学的な調査に用いる場合は、実見と再検討を要するものもある。

## 2. 調査の方針

すでに日野町、蒲生町の石材分布調査で、いちおう「米石」を用いた製品の分布の西限が、日野川と佐久良川の合流地点付近であることが把握されている<sup>(2)</sup>。そのため蒲生町と近江八幡市東部には含まれる八日市市西南部の、上羽田町、中羽田町、下羽田町、上平木町、柏木町などは、当初から「米石」の分布圏外であることは判っていた。このように、八日市市内での石材調査は、ある程度の分布の予想が立っていたため、これまで日野・蒲生両町で行ってきたような悉皆調査に近いものではなく、鎌倉・南北朝時代の代表的な石造美術に限定した。なお必要に応じて、一部室町時代のものも加えた。

永源寺町については、今回は田岡氏の報告に準じ、新たに知られた、山上の靈感寺境内にある宝篋印塔を1例追加した。

なお、本稿にあげた個々の石造美術は、石材を検討することが目的であるが、参考までに各石造美術の形式検討を行ううえでの必要事項についてのみ、前回の日野町同様付記した。したがって、各々の写真、拓本、計測値等について、さらに詳細なデータを検討する場合は、個々にあげた参考文献を利用願いたい。

### 【凡例】

1. 掲載した各石造美術の石材は、すべて石造美術研究者のいう広義の花崗岩であるが、ここでは石材は、花崗岩と湖東流紋岩に分類した。また、花崗岩の内、日野町蔵王産の花崗岩のみ、「細粒黒雲母花崗岩（米石）」とした。
2. 宝篋印塔の基礎は、注記の無い場合は、上部は二段式で、側面には輪郭と格狭間をもつものである。
3. 分布調査時の見解は、備考として記入した。
4. 在銘品以外で、年代に西暦のあるものは田岡香逸氏の編年観による。時代のみのは、三木治子氏の年代観による。
5. 残欠は、八日市市では特色の顕著な宝塔、宝篋印塔の基礎を主とした。
6. 永源寺町については、対象となる石造美術の数と、調査地が少ないことから、種類別ではなく、地域別に記した。

## 3. 八日市市主要中世石造美術一覧

### ① 層塔

1. 寺町・大蔵寺墓地 鎌倉中期（1250年代後半）花崗岩  
基礎・塔身に種子（四面）・笠三層・相輪

- 『民俗文化』136 1166 P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 654 P
2. 神田町・薬師堂 鎌倉中期 (1264年頃) 花崗岩 (未調査)  
基礎・塔身・笠三層・相輪 (上部欠失)  
『蒲生野』3、『歴史考古学』23、『八日市市史』2 655 P  
(備考) 田岡氏報告の「宮ノ西墓地」と同じ
3. 今堀町・日吉神社 鎌倉後期 (1305年頃) 花崗岩  
基礎・塔身に尊像 (四面)・笠五層・相輪 (上部欠失)  
『民俗文化』161 1483 P、『歴史考古学』23、『八日市市史』2 655 P
4. 建部瓦屋寺町・瓦屋寺七重塔 鎌倉 湖東流紋岩  
基礎・塔身に尊像 (四面)・笠七層  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 654 P

## ② 宝塔

5. 市辺町・大蓮寺 嘉暦3年 (1328) 花崗岩  
基礎 残欠  
『歴史考古学』23
6. 布施町・向井嘉代治家前 建武3年 (1336) 花崗岩 (未調査)  
基礎に開花蓮 (内、正面は開花蓮の中心に月輪を配す) 残欠  
『民俗文化』156 1417 P
7. 市辺町・大蓮寺 建武5年 (1338) 花崗岩  
基礎正面に格狭間なしで二仏、開花蓮 (三面) 残欠  
『歴史考古学』20、『歴史考古学』23
8. 市辺町・大蓮寺 鎌倉末～南北朝初期 花崗岩  
基礎に開花蓮 (三面)、三茎蓮 残欠  
『歴史考古学』23
9. 蛇溝町・長緒神社 南北朝初期 花崗岩  
基礎に三茎蓮 (二面)、開花蓮・孔雀文  
『民俗文化』113 893 P、『歴史考古学』20  
(備考) 田岡氏は南北朝中期も1360年頃までとみるが、孔雀文が柏木町正寿寺宝篋印塔と同形式であり、鎌倉末～南北朝初期とみるのが妥当か？

## ③ 宝篋印塔

10. 柏木町・正寿寺 (西塔) 正応4年 (1291) 花崗岩  
塔身に尊像 (四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部に蓮華座と、直に種子を配する。  
『民俗文化』62 417 P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 629 P

11. 妙法寺町・妙法寺薬師堂 永仁3年(1295) 花崗岩  
塔身に尊像(一面)、笠の隅飾は一弧素面  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 631P
12. 布施町・向并喜代治家前 鎌倉後期(1295年) 花崗岩(未調査)  
基礎に三茎蓮(二面)、他は素面 残欠  
『民俗文化』156 1417P
13. 川合寺町・西蓮寺 鎌倉後期 花崗岩(未調査)  
基礎に三茎蓮(四面)、塔身に種子(四面)、笠の隅飾は二弧で内部は素面  
『歴史考古学』23、『八日市市史』2 639P  
(備考) 三木氏によれば、11の永仁3年塔と類似することから、1295年頃か
14. 今堀町・蓮光寺 鎌倉後期(1305年頃) 花崗岩  
反花式基壇、基礎(壇上積式)に開花蓮(四面)、上部は反花式 残欠  
『民俗文化』161 1484P
15. 妙法寺町・光林寺 嘉元4年(1306) 花崗岩  
基礎(壇上積式)に三茎蓮・開花蓮(三面)、塔身に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付三弧で内部に蓮華座、種子を配した月輪  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 632P
16. 林田町・香林寺庫裏 正和3年(1314) 細粒黒雲母花崗岩(米石)  
相輪上半を欠失する他は、完存  
基礎(壇上積式)に孔雀文・三茎蓮(三面)、上部は反花式、塔身に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『蒲生野』2、『歴史考古学』23、『八日市市史』2 638P  
(備考) 現在境内の西隅の築山にある宝篋印塔の塔身としてあるものが、石材の質、形式からみて庫裏にある宝篋印塔16の塔身である。塔身に銘文有り。  
もともとは寺にあったものでなく、西方の山林中にある墓地より移したものの(『蒲生野』2)。
17. 市辺町・大蓮寺 正和5年(1316) 花崗岩  
基礎(壇上積式)に開花蓮(三面)・宝瓶三茎蓮 残欠  
『民俗文化』58 387P、『歴史考古学』20、『歴史考古学』23
18. 市辺町・大蓮寺 正和6年(1317) 花崗岩  
基礎に開花蓮(四面)、上部は反花式 残欠  
『歴史考古学』23
19. 東中野町・徳円寺 元亨4年(1324) (未調査)  
基礎に開花蓮(四面)、上部は反花式 残欠  
『歴史考古学』23

20. 野村町・野村八幡神社 正中3年(1326) 花崗岩(未調査)  
基礎に開花蓮・三茎蓮、上部は反花式、塔身に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『民俗文化』161 1428P、『歴史考古学』23、『八日市市史』2 639P  
(備考) 三木氏は正中2年と判読
21. 上羽田町・円通寺 嘉暦元年(1326) 花崗岩  
基礎に開花蓮(三面)、上部は反花式、塔身に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『歴史考古学』20
22. 市辺町・法徳寺 嘉暦元年(1326) 花崗岩  
塔身に尊像(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部に蓮華座、種子を配した月輪 塔身・笠のみ  
『歴史考古学』20
23. 五智町・興福寺 嘉暦元年(1326) 花崗岩  
基礎(壇上積式)に開花蓮(四面)、上部は反花式、塔身に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『歴史考古学』20
24. 市辺町・大蓮寺 嘉暦2年(1327) 花崗岩  
基礎(壇上積式)に開花蓮(二面)、三茎蓮 残欠  
『歴史考古学』23
25. 市辺町・大蓮寺墓地 正慶元年(1332) 花崗岩  
基礎(壇上積式)に開花蓮(四面)、上部は反花式  
『民俗文化』113 894P、『歴史考古学』20、『歴史考古学』23  
(備考) 『民俗文化』113に同じく紹介されている残欠の塔身、笠と一具をなす
26. 柏木町・正寿寺(東塔) 鎌倉後期(1320年頃) 花崗岩  
基礎に開花蓮・三茎蓮(二面)・孔雀文、上部は反花式、塔身に尊像(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部に蓮華座、種子を配した月輪  
『民俗文化』62 419P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 629P
27. 金屋二丁目・金念寺 鎌倉後期(1325年頃) 花崗岩  
基礎(壇上積式)に開花蓮(四面) 基礎、笠の残欠  
『蒲生野』2、『歴史考古学』20
28. 金屋二丁目・金念寺 鎌倉後期(1325年頃) 花崗岩(未調査)  
相輪上半を欠失する他は、完存  
基礎に開花蓮(四面)・上部は反花座、塔身に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部に蓮華座、種子を配した月輪  
『蒲生野』2、『歴史考古学』20

(備考) 三木氏は南北朝

29. 西市辺町・法徳寺 鎌倉後期 (1330年頃) 花崗岩 (花崗斑岩か?)  
相輪を除き完存  
基礎 (壇上積式) に開花蓮 (四面)、塔身に尊像 (四面)、笠の隅飾は  
輪郭付二弧で内部は素面  
『民俗文化』152 1366 P、『歴史考古学』20  
(備考) 塔身は青味がかっており、岩倉産の可能性あり
30. 中羽田町・多聞院 鎌倉後期 花崗岩  
基礎 (壇上積式) に開花蓮 (四面)、塔身に種子 (四面)、笠の隅飾は  
輪郭付二弧で内部は素面  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 635 P
31. 今崎町・引接寺 鎌倉後期 湖東流紋岩  
相輪上半を欠失、笠、塔身の一部が欠損するが、ほぼ完存  
基礎 (壇上積式) に開花蓮 (四面)、塔身に尊像 (四面)、笠の隅飾は  
輪郭付三弧で内部は蓮華座、種子を配した月輪  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 633 P  
(備考) 火を受けて欠損か
32. 上大森町・養源寺 鎌倉後期 花崗岩  
基礎に宝瓶三茎蓮 (二面)・開花蓮・散蓮、上部は反花式、塔身は線刻  
した蓮華座を月輪内に種子 (四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 638 P
33. 上大森町・養源寺 鎌倉後期 花崗岩 (基礎)、笠・塔身 (湖東流紋岩)<sup>(3)</sup>  
基礎 (壇上積式) に宝瓶三茎蓮 (二面)・開花蓮、上部は反花式、塔身  
に種子 (四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 638 P
34. 大森町・長福寺 鎌倉後期 花崗岩  
相輪を除き完存  
基礎に宝瓶三茎蓮 (二面)・開花蓮 (二面)、上部は反花式、塔身は月  
輪内に種子 (四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 638 P
35. 神田町・高麗寺横 鎌倉後期 花崗岩  
相輪上半を欠失する他は完存  
基礎に三茎蓮 (四面)、塔身は月輪内に種子 (四面)、笠の隅飾は一弧  
で種子を配す  
『歴史考古学』23、『八日市市史』2 639 P
36. 野村町・公民館 鎌倉後期 花崗岩

塔身に種子（四面）、笠の隅飾は一弧素面 塔身・笠のみ  
『歴史考古学』23、『八日市市史』2 640 P

（備考）もとは野村八幡に所在

37. 布施町・向井喜代治家前 鎌倉後期 花崗岩（未調査）  
基礎に開花蓮（四面）、上部は反花式  
『民俗文化』156 1417 P
38. 市辺町・大蓮寺 建武2年（1335） 花崗岩  
基礎（壇上積式）に宝瓶三茎蓮（四面）、上部は反花式 残欠  
『歴史考古学』20、『歴史考古学』23
39. 市辺町・大蓮寺 建武3年（1336） 花崗岩  
基礎（壇上積式）に開花蓮（三面）・散蓮、上部は反花式 残欠  
『歴史考古学』23
40. 糠塚町・地福町 建武3年（1336） 花崗岩  
反花式基壇、基礎に開花蓮（四面）、塔身に種子（四面）、笠の隅飾は  
輪郭付二弧で内部に蓮華座、種子を配した月輪  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 635 P
41. 市辺町・大蓮寺 建武4年（1337） 花崗岩  
基礎（壇上積式）に開花蓮（四面）、上部は反花式 残欠  
『歴史考古学』23
42. 小今町・称名寺 永和元年（1375） 花崗岩  
基礎に開花蓮・宝瓶三茎蓮・散蓮、塔身に種子（四面）、笠の隅飾は輪  
郭付三弧で内部に蓮華座、種子を配した月輪  
『民俗文化』73 514 P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 641 P
43. 建部下野町・弘誓寺 南北朝初期 湖東流紋岩  
相輪上半を欠失する他は、完存  
基礎（壇上積式）に三茎蓮（四面）、塔身は月輪内に種子（四面）、笠  
の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 637 P
44. 市辺町・法徳寺 南北朝前期（1340年頃） 花崗岩  
基礎に開花蓮（三面）、他は素面、上部は反花式 残欠  
『民俗文化』152 1366 P
45. 上羽田町・華岳山墓地 南北朝前期（1345年頃） 花崗岩（未調査）  
笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面 特殊宝篋印塔笠 残欠  
『民俗文化』160 1474 P、『歴史考古学』23
46. 建部瓦屋寺町・牛尾神社 南北朝前期 花崗岩（未調査）  
相輪をほとんど欠失する他は、完存



基礎に開花蓮(三面)・三茎蓮、上部は反花式、塔身は月輪内に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部に蓮華座、種子を配した月輪  
『歴史考古学』23、『八日市市史』2 641P

47. 市辺町・大蓮寺 南北朝中期 湖東流紋岩  
反花式基壇、基礎(壇上積式)の東のない簡略形式、塔身に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『民俗文化』58 389P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 641P

48. 中羽田町・多聞院 南北朝 花崗岩  
基礎(壇上積式)に開花蓮、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 635P

49. 尻無町・妙応寺 南北朝～室町初期 花崗岩  
基礎に三茎蓮(一面)・開花蓮(二面)、上部は反花式、塔身は月輪内に種子、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部に蓮華座、種子を配した月輪  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 640P

(備考) 年代観は『八日市市史』による

50. 下羽田町・光明寺 室町初期 花崗岩  
塔身に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 637P

51. 今堀町・蓮光寺 室町初期 (未調査)  
基礎の上部は反花式  
『歴史考古学』23

(備考) 元は寺の東にある小学校脇の墓地

#### ④ 五輪塔

52. 小脇町・成瀬寺 鎌倉 (未調査)  
基礎は別物  
『歴史考古学』20
53. 瓜生津町・弘誓寺 鎌倉後期 花崗岩  
『歴史考古学』23、『八日市市史』2 652P
54. 大森町平尾・極楽寺 鎌倉後期(1320年頃) 花崗岩  
反花式基壇 各輪の四面に種子  
『蒲生野』2、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 652P

(備考) 三木氏は南北朝

55. 建部瓦屋寺町・瓦屋寺参道 南北朝前期 (未調査)  
『歴史考古学』23、『八日市市史』2 653P
56. 東中野町・徳円寺 南北朝 (未調査)

⑤ 石 仏

57. 市辺町・大蓮寺三尊石仏 元亨元年(1321) 花崗岩?  
『民俗文化』58 388P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 656P
58. 市辺町・法徳寺三尊石仏 貞和2年(1346) 花崗岩?  
『民俗文化』152 1366P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 657P

⑥ 石燈籠

59. 上羽田町・羽田神社 正応元年(1288) 花崗岩  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 648P
60. 神田町・河桁御河辺神社 延慶4年(1311) 細粒黒雲母花崗岩(米石)  
基礎(反花式壇上積式) 獅子・孔雀・宝瓶三莖蓮  
『蒲生野』3、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 642P
61. 上平木町・日吉神社 正和3年(1314) 未確認(盗難)  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 646P
62. 下羽田町・剣神社 元応元年(1319) 花崗岩  
『歴史考古学』20、『八日市市史』2 647P  
(備考) 全体に粗粒の黒雲母花崗岩であるが、竿のみ長石斑が目立ち、あるいは別石か
63. 芝原南町・玉緒神社 鎌倉後期(1325年頃) 花崗岩  
『民俗文化』161 1482P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 649P  
(備考) 三木氏は南北朝初期
64. 蛇溝町・長緒神社 嘉暦3年(1328) 花崗岩  
『民俗文化』892P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 651P
65. 中羽田町・八幡神社 鎌倉末期 花崗岩  
火袋に散蓮、宝瓶三莖蓮  
『歴史考古学』23、『八日市市史』2 648P
66. 市辺町・三所神社 建武4年(1337) 斑状花崗岩または湖東流紋岩  
『民俗文化』58 389P、『歴史考古学』20、『八日市市史』2 650P

4. 永源寺町主要中世石造美術一覽

【高木】

- 1 浄福寺境内墓地 鎌倉後期(1330年頃) 細粒黒雲母花崗岩(米石)  
宝塔基礎 残欠  
基礎に孔雀文・宝瓶三莖蓮文・散蓮・開花蓮

- 『民俗文化』136 1160 P
- 2 浄福寺境内墓地 鎌倉後期(1330年頃)<sup>(4)</sup> 細粒黒雲母花崗岩(米石)  
宝篋印塔基礎 残欠  
基礎(壇上積式)に宝瓶三葉蓮(二面)、上部は反花式  
『民俗文化』136 1163 P

(備考) 田岡氏は鎌倉後期でも1295年頃とみる

- 3 浄福寺境内墓地 鎌倉後期(1320年頃) 湖東流紋岩  
宝篋印塔 残欠  
『民俗文化』136 1161 P
- 4 浄福寺境内墓地 鎌倉後期(1320年頃) 細粒黒雲母花崗岩(米石)  
五輪塔塔身 残欠  
蓮華座上に月輪線刻、月輪内に種子  
『民俗文化』136 1161 P
- 5 浄福寺境内墓地 南北朝前期(1350年頃) 細粒黒雲母花崗岩(米石)  
五輪塔宝珠・請花 残欠  
『民俗文化』136 1162 P

(備考) 4とは年代も大きさも合わず、別のもの

- 6 浄福寺境内墓地 室町(1520年頃) 細粒黒雲母花崗岩(米石)  
小型板碑  
阿弥陀一尊座像と格狭間を刻出  
『民俗文化』136 1162 P
- 7 浄福寺境内墓地 鎌倉後期～南北朝 細粒黒雲母花崗岩(米石)  
層塔笠残欠 1点

(備考) 『民俗文化』136に、未報告

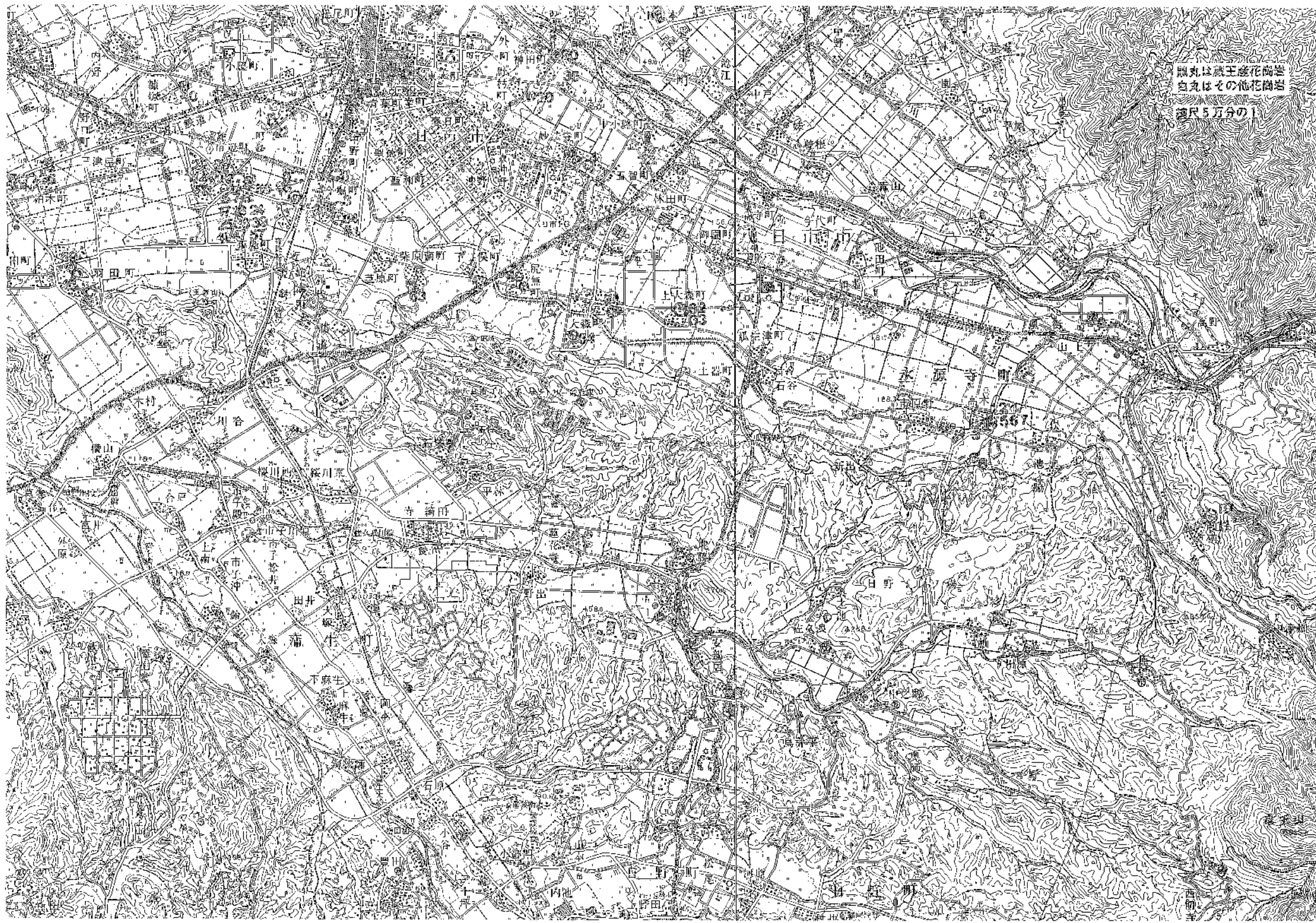
- 8 白鳥神社 正慶元年(1332) 花崗岩  
石燈籠  
『民俗文化』136 1160 P

#### 【山上】

- 9 靈感寺 鎌倉後期(1310年頃) 細粒黒雲母花崗岩(米石)  
宝篋印塔・完存  
基礎(壇上積式)に孔雀文(三面)、上部は反花式、塔身に種子(四面)、笠の隅飾は二弧で内部は素面  
『永源寺町歴史探訪』I<sup>(5)</sup>

#### 【和南】

- 10 光明寺 南北朝末期(1390年頃) 湖東流紋岩  
宝篋印塔・相輪を除き完存



第1図 石道美術石材分布図

基礎に三茎蓮文（この面のみ格狭間なし・一面）、上部は反花式、塔身に種子（四面）、笠の隅飾は二弧で内部は素面

『民俗文化』136 1164 P

（備考） 田岡報告の宝篋印塔 A

11 光明寺

南北朝末期（1390年頃）

湖東流紋岩（笠・塔身）・花崗岩（基礎）<sup>(3)</sup>

宝篋印塔・相輪を除き完存

基礎に開花蓮（三面）・散蓮、塔身に種子（四面）、笠の隅飾は二弧で内部は素面

『民俗文化』136 1164 P

（備考） 田岡氏報告の宝篋印塔 B

## 5. 分布状況のまとめ

### (1) 永源寺町

上流部より順にみると、愛知川の支流である和南川の右岸に位置する鈴鹿山麓の和南では、石造美術は湖東流紋岩を用いている。今回の調査の対象とはしなかったが、石造美術が小形化し、数が増える室町時代中期以降でも、小形の組合せ式五輪塔、小形板碑、一石五輪塔にいたるまで、石材は湖東流紋岩が主流である。ただ、光明寺墓地でわずかに1点、「米石」の小形組合せ式五輪塔の笠が認められた。

それに対して、愛知川左岸側の布引丘陵の裾に近い高木、左岸段丘上の山上には、鎌倉・南北朝時代の「米石」の石造美術の分布が認められる。中でも高木の浄福寺境内に限って、「米石」の石造美術が5点もあり、この内4点は鎌倉～南北朝時代のものである。また、種類も宝塔、宝篋印塔、五輪塔、層塔とこの時期の近江の主要な石塔が一通り揃っていることは注意すべきであろう。これら石造美術が、もともと浄福寺境内に有ったものかどうかはわからないが、高木の集落から遥かに離れた場所にあったものを、わざわざ運んで集めたものとも思われぬ。数こそ、各々1、2基とはいふものの、一つの地域で同一の石材でまとまっているということは、何らかの理由によってセットとして受入れをしなければならないような背景があったのかもしれない。

永源寺町のもう一つの「米石」の石造美術は、山上に宝篋印塔が単独である。高木で見られるような分布とは異なり、むしろ優品が単独で残されている、八日市市東北部での「米石」の石造美術の分布状況と共通するものがある。

### (2) 八日市市

八日市市内での「米石」の石造美術の分布は、予想した以上に分布が認められなかった。わずかに「米石」と認められたものは、市内でも東北部にあたる神田町河桁御河辺神社の石燈籠と、林田町香林寺庫裏の宝篋印塔だけで、市域の西半―現在の市街地を中心とする地域や箕作山山麓では見られず、極めて分布密度の薄いことが判った。

また、「米石」の石造美術が比較的多くみられた永源寺町高木に近接する、上大森町や大森町の

石造美術にも、今回の調査では室町時代中期以降のものも含めて、ほとんど「米石」の石造美術は見られない。おそらく、存在したとしても、永源寺町和南でみられたように、ごく少量が運び込まれただけと思われる。

八日市市域での分布調査の結果からいえば、「米石」の石造美術は、おそらく布引丘陵西部を越えて、現在の八日市市域へはほとんど運び込まれなかったと考えて良いのではないだろうか。

## 6. 小 結

永源寺町、八日市市に認められる、わずかな「米石」の分布状況からいえば、日野町から布引丘陵を越えての「米石」の石造美術の搬出は、永源寺町高木のような特定の場所を除いて、ごくわずかしかなかったと考えられる。

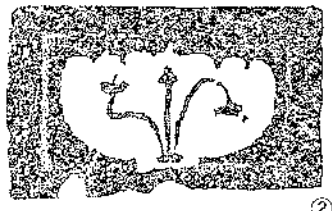
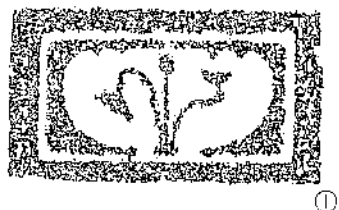
ただ、「米石」の石造美術は、分布する数はきわめて少ないが、各々に共通するものがある。永源寺町山上靈感寺、八日市市林田香林寺の宝篋印塔、永源寺町高木浄福寺の宝塔、八日市市神田町の河桁御河辺神社石燈籠が、全て、基礎の装飾に孔雀が施された優品であることがあげられよう。近江の孔雀文については、現在21例が知られている。その内16例が、愛知川以南の蒲生郡、神崎郡など湖東地域に集中している。さらに、湖東地域の中でも、日野、蒲生両町にみられる孔雀文は9例あり、県外に流出して確認出来ないもの1例と、未確認のもの1例<sup>⑥</sup>を除けば、全て「米石」である。こうした、日野、蒲生、永源寺、八日市など湖東地域に分布する「米石」の孔雀文は、鎌倉後期も1300~1330年頃に集中的に製作されており、この時期蔵王の石大工の作品にほぼ独占されている。

湖東地域でも、例外的に「米石」でない孔雀文が、八日市市の中央部から西部一蛇溝町長緒神社宝塔<sup>(9)</sup>と柏木町正寿寺宝篋印塔<sup>(26)</sup>と、蒲生郡竜王町鏡・西光寺跡宝篋印塔に見られる。竜王町のは、立地からいえばむしろ湖南地域に含まれ、ここでは比較から除外しておこう。さて、八日市市の2例は、「米石」の孔雀文に比べて文様の意匠が稚拙である。形式的にも、蔵王で製作された孔雀文より後出するものであることは明らかである。あえて、先学の年代観を当てはめれば、上限は早くとも鎌倉後期も1320年頃を遡ることはなく、下限は南北朝中期も1360年頃までのものであろう。ただ、(9)、(26)とも文様が共通することから、同じ石大工の手によって製作されたものと考えられるが、宝瓶三茎蓮文が「米石」にみられるものと異なること



第2図 二種の孔雀文

- ① 永源寺町高木  
浄福寺宝塔(1)
- ② 八日市市柏木町  
正寿寺宝篋印塔(27)



第3図 孔雀文に伴う宝瓶三茎蓮文

- ① 正寿寺宝篋印塔(26)
- ② 長緒神社宝塔(9)

から(第3図)、私は蔵王の石大工の作品とは考えていない。

永源寺町、八日市市での「米石」の石造美術の分布を見ると、高木・浄福寺以外では単独分布していることと考え合わせると、その時期ほとんど唯一に近い形で孔雀文を製作していた蔵王の石大工の製品が、必要あって運ばれたものと考えられるのである。

永源寺町高木の「米石」の石造美術の搬入ルートを考えて場合、日野町の蔵王から山裾沿いの道で、西明寺を経て佐久良川上流に運ばれ、さらに日野町袖付近から布引丘陵の東側を越えて運ばれたとすると、比較的産地から短い距離で入手できる。ただ、高木の東西に隣接する、永源寺町や八日市市の各集落には、「米石」の石造美術がみられないことから、高木から布引丘陵を越えて佐久良川上流と結ばれる道は、当時の流通路としてはきわめて特異な位置を占めていたのかも知れない。高木に対して和南は、蔵王から直線距離としては、山麓ルートでは高木よりも近い。それにもかかわらず「米石」の石造美術はなく、地元の湖東流紋岩を用いている。地理的には、愛知川の支流和南川の右岸に立地しており、川が分布圏の境界になっているようである。まだ、十分に精査しているわけではないが、田岡氏の報告などを見るかぎりにおいては、湖東の愛知川右岸地域では、目下の所、「米石」の石造美術の分布は見られない。これらのことから推定して、「米石」の石造美術の分布の北限は、日野町から布引丘陵を越えても、愛知川の左岸までの範囲にほぼ限定できる。

今回調査した地域の内、八日市市域に関しては、鎌倉後期から南北朝時代にかんがりの石造美術の需要があったにも関わらず、日野川や佐久良川流域に優秀な「米石」の石造美術が数多くみられるのに、布引丘陵を越えてその北側にまで分布することは、極めて難しかったようである。

#### 註

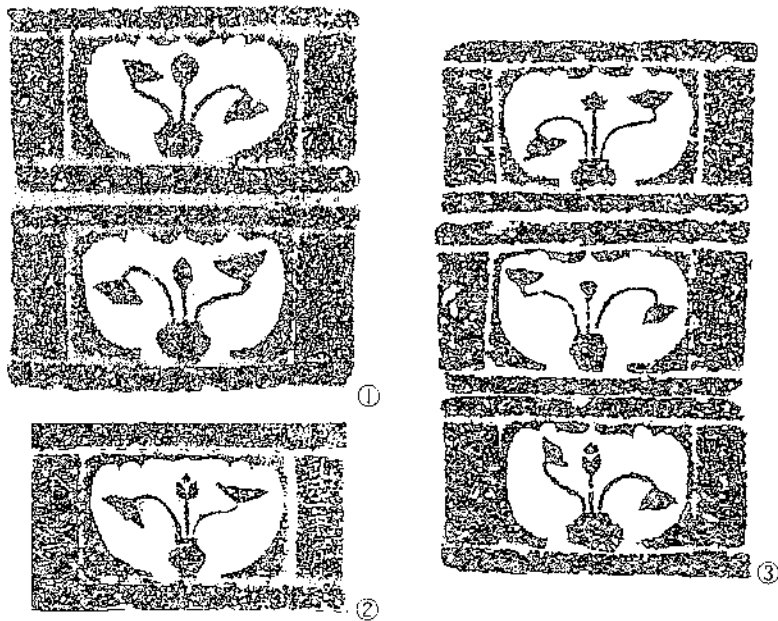
- (1) 田岡香逸「近江蔵王の石造文化圏 付 石大工平景吉の系譜とその作品」1～5(『民俗文化』195～199 滋賀民俗学会 1979～1980年 大津)
- (2) 兼康保明「滋賀県蒲生郡日野町における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布—日野町石造美術石材分布調査概要—」(『関西学院考古』9 関西学院大学考古学研究会 1991年 西宮) 第1図参照。
- (3) 石造美術を構成する部材の石質が異っていた場合、これまでは“寄せ集め”と考えていた。しかし、筆者のこれまでの近江での石材産地の調査によれば、河原の転石や土中の玉石を素材にしており、数種の石質の異なる石材が採集可能な場所や、入手出来る場所であれば、混在して石造美術が構成される可能性は十分ある。したがって、永源寺町(1)や八日市市(3)のように、計測値などにより、笠から基礎まで一体のものと考えられる場合、異った石質で構成されていても問題はない。寄せ集めか、一具かを判定するためには、より精密な調査が要求されよう。
- (4) 田岡氏は、『民俗文化』第136号では、基礎側面の比率(1.90)と輪郭や格狭間の手法などから、整備形式以前の鎌倉後期も永仁頃(1295)の造立と考えた。しかし、日野、蒲生両町に見られる「米石」を用いた石造美術の上限は、すでに報告したように鎌倉後期の1290～1300年頃であり、宝瓶三茎蓮文、格狭間の形式などの比較からすれば、本例は1290～1300年頃の文様に



比べて後出的である。むしろ本例と、形式的に類似するものをあげるなら、日野町内池・摂取院の元応2年(1320)宝篋印塔の宝瓶三茎蓮文があげられよう(第4図)。高木の宝篋印塔は、基礎だけしか残っていないため、各部と比較して時期の検討ができないが、基礎の作りに古式をとどめはするものの、文様から見て、鎌倉後期も1320~30年頃の作品と考えた。

- (5) 深谷弘典『永源寺町の歴史探訪』1(近江文化社 1993年 大津)161P。
- (6) 蒲生町石塔の極楽寺にある宝塔基礎残欠。元は、境内にあったが、盗難防止のため、現在寺の中に保管されている。孔雀文のデザインからみて、おそらく石質は「米石」と思われる。
- (7) 同時期の「米石」の石造美術に見られる宝瓶三茎蓮文は、必ず最低限、宝瓶の口縁部と肩部まで描いているが、(9)、(26)では宝瓶の口縁端までである。

蔵王の石大工による宝瓶三茎蓮文の形式学的検討については、いずれ別稿で詳述する予定であるが、そのアウトラインについては、「田岡香逸「近江蔵王の石造文化圏 付 石大工平景吉の系譜とその作品」の検討と再評価」(『民俗文化』353 滋賀民俗学会 1993年 大津)でも若干触れているので、参照されたい。



第4図 格狭間・宝瓶三茎蓮文の比較

- ① 永源寺町浄福寺宝篋印塔(2)
- ② 日野町西明寺乾元2年(1303)宝塔
- ③ 日野町摂取院元応2年(1320)宝篋印塔

#### 参考文献

- ・田岡香逸「近江市辺の石造美術—大蓮寺・三所神社—」(『民俗文化』58 滋賀民俗学会 1968年)
- ・田岡香逸「正寿寺の宝篋印塔」(『民俗文化』62 滋賀民俗学会 1968年)



- ・田岡香逸「八日市市の石造美術」(『蒲生野』2 八日市市郷土文化研究会 1969年)
- ・田岡香逸「八日市市の石造美術(二) 神田町」(『蒲生野』3 八日市市郷土文化研究会 1969年)
- ・田岡香逸「近江湖東の石造美術」(『民俗文化』73 滋賀民俗学会 1969年)
- ・田岡香逸「続々近江湖東の石造美術(後)」(『民俗文化』113 滋賀民俗学会 1973年)
- ・田岡香逸「近江湖東の石造美術(前)－高木・和南・妹・寺町－」(『民俗文化』135 滋賀民俗学会 1974年)
- ・田岡香逸「近江湖東の石造美術(後)－高木・和南・妹・寺町－」(『民俗文化』136 滋賀民俗学会 1975年)
- ・田岡香逸「近江西市辺の石造美術」(『民俗文化』152 滋賀民俗学会 1976年)
- ・田岡香逸「近江湖東の石造美術(前)－近江八幡市・八日市市－」(『民俗文化』155 滋賀民俗学会 1976年)
- ・田岡香逸「近江湖東の石造美術(後)－近江八幡市・八日市市－」(『民俗文化』156 滋賀民俗学会 1976年)
- ・田岡香逸「近江八日市の石造美術(前)－上羽田・西市辺・野村・芝原・今堀－」(『民俗文化』160 滋賀民俗学会 1977年)
- ・田岡香逸「近江八日市の石造美術(後)－上羽田・西市辺・野村・芝原・今堀－」(『民俗文化』161 滋賀民俗学会 1977年)
- ・三木治子「滋賀県八日市市の石造美術」(『歴史考古学』第20号 歴史考古学研究会 1987年)
- ・三木治子「滋賀県八日市市の石造物(続)」(『歴史考古学』第23号 歴史考古学研究会 1989年)
- ・近藤 豊「石造遺宝」(『八日市市史』2 八日市市役所 1983年)

本稿を含む一連の日野町蔵王産花崗岩製石造美術の調査は、「中世石大工の基礎研究」の一節である。これまでに執筆した成果は次のとおりである。

- 1 「中世の花崗岩石切場を訪ねて―滋賀県蒲生郡日野町蔵王勝手谷踏査記―」(『関西学院考古』8 関西学院大学考古学研究会 1987年 西宮)
- 2 「滋賀県蒲生郡日野町における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布―日野町石造美術石材分布調査概要―」(『関西学院考古』9 関西学院大学考古学研究会 1991年 西宮)
- 3 「田岡香逸「近江蔵王の石造文化圏 付 石大工平景吉の系譜とその作品」の検討と再評価」(『民俗文化』353 滋賀民俗学会 1993年 大津)
- 4 「滋賀県蒲生郡蒲生町における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布―蒲生町石造美術石材分布調査概要―」(掲載誌未定)

調査報告の次回は、「滋賀県甲賀郡における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布」(仮題)を予定しており、現在調査中である。

編集後記

今年の『紀要』は例年になく原稿の集まりが早かった。これも偏に各執筆者の日々の精進の賜物か。

今後も、洛陽の梓価を高めるような『紀要』であり続けたい。

編集者

平成5年3月 初版  
平成6年3月 2刷

紀 要 第 6 号

編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会  
大津市瀬田南大萱町1732-2  
Tel(0775)48-9780・9781

印 刷 宮川印刷株式会社  
大津市富士見台3番18号  
Tel(0775)33-1241